



固定化した死のイメージにとられすぎないことも大切。(写真はイメージです)

ないという気持ちはわかりません。でも、迷惑とは自分でできることを怠慢にして、誰かに手間をかけること。日本では、いづれの遺品整理のプロである私でさえ、自分の遺品整理はできないですからね」

「70〜80代の高齢者が孤立死で亡くなる可能性はもともと高いはず。周りの友達も亡くなり、年齢的にも命を落とすやすすくなっているんですから、それよりも深刻なのは、若い世代で孤立した生活をしている人だと思つ。皆さんもそれに気づき始めているのではないのでしょうか」

「30年には単身世帯が約40%を占め、ひとりで息を引き取るほうがスタンダードになる時代が来ます」

エンディングノートを書く

感謝の言葉、死後どうしてほしいかなどを自由に書いてみてください」

「死ぬ瞬間からさかのぼって人生を考えるのは間違っています。いまこそが人生なんだから、なるべくいまを楽しんで生きるべき。以前診察したある女性は、大原麗子さんがうらやましい」といってしました。好きなように生きて、死ぬときでさえ自分で好きな時期に死んだわけでしょう。自由そのものじゃないですか。何もしがみつかず、何もかも解放された、究極の自由死、ではないのでしょうか」

【写真右から】松原惇子さん、吉田太一さん、市川愛さん、香山リカさん。



SSSネットワークで作った共同墓は明るい雰囲気(写真上)。会合には多くの女性会員たちが集まる。おひとりさまだけでなく、家族を持つ人も(写真左)。

「00年に完成した共同墓は花と緑に囲まれ、一見、お墓とは思えないようなおしゃれな造り。300体が納骨できるように作ったが、既に予約でいっぱい。現在、二十数人がここに眠り、さらに100体分の納骨スペースを拡張中という。

「孤独死は、人間関係や生活スタイルが社会から孤立している状態で死を迎えることで、客観的に判断できます。いま、死んでも気づいてもらえない、そんな孤立死一步手前の人たちは、実際多いと思うんです」

「孤独死を恐れるのだからか、立教大学現代心理学部教授で精神科医の香山リカさんはこう分析する。

「死ぬ瞬間からさかのぼって人生を考えるのは間違っています。いまこそが人生なんだから、なるべくいまを楽しんで生きるべき。以前診察したある女性は、大原麗子さんがうらやましい」といってしました。好きなように生きて、死ぬときでさえ自分で好きな時期に死んだわけでしょう。自由そのものじゃないですか。何もしがみつかず、何もかも解放された、究極の自由死、ではないのでしょうか」

「最近の入会理由をみると、友達に欲しいって人ばかり。みんな孤独なんですね」

「孤立死は、人間関係や生活スタイルが社会から孤立している状態で死を迎えることで、客観的に判断できます。いま、死んでも気づいてもらえない、そんな孤立死一步手前の人たちは、実際多いと思うんです」

「死ぬ瞬間からさかのぼって人生を考えるのは間違っています。いまこそが人生なんだから、なるべくいまを楽しんで生きるべき。以前診察したある女性は、大原麗子さんがうらやましい」といってしました。好きなように生きて、死ぬときでさえ自分で好きな時期に死んだわけでしょう。自由そのものじゃないですか。何もしがみつかず、何もかも解放された、究極の自由死、ではないのでしょうか」

「死ぬ瞬間からさかのぼって人生を考えるのは間違っています。いまこそが人生なんだから、なるべくいまを楽しんで生きるべき。以前診察したある女性は、大原麗子さんがうらやましい」といってしました。好きなように生きて、死ぬときでさえ自分で好きな時期に死んだわけでしょう。自由そのものじゃないですか。何もしがみつかず、何もかも解放された、究極の自由死、ではないのでしょうか」

「死ぬときのことばかり意識しちゃって人には、死が趣味？といつてやりたい。家族がいてもいなくても、みんないつかひとりで死ぬんですよ。だから、それまでどう楽しく、いきいきと生きるかがいちばん大切。とにかく、人とのかわりや欠かさないこと。人とかかわってほしいと、心が冷たくなつてしましますよ」

「死ぬときのことばかり意識しちゃって人には、死が趣味？といつてやりたい。家族がいてもいなくても、みんないつかひとりで死ぬんですよ。だから、それまでどう楽しく、いきいきと生きるかがいちばん大切。とにかく、人とのかわりや欠かさないこと。人とかかわってほしいと、心が冷たくなつてしましますよ」

「死ぬ瞬間からさかのぼって人生を考えるのは間違っています。いまこそが人生なんだから、なるべくいまを楽しんで生きるべき。以前診察したある女性は、大原麗子さんがうらやましい」といってしました。好きなように生きて、死ぬときでさえ自分で好きな時期に死んだわけでしょう。自由そのものじゃないですか。何もしがみつかず、何もかも解放された、究極の自由死、ではないのでしょうか」

「死ぬ瞬間からさかのぼって人生を考えるのは間違っています。いまこそが人生なんだから、なるべくいまを楽しんで生きるべき。以前診察したある女性は、大原麗子さんがうらやましい」といってしました。好きなように生きて、死ぬときでさえ自分で好きな時期に死んだわけでしょう。自由そのものじゃないですか。何もしがみつかず、何もかも解放された、究極の自由死、ではないのでしょうか」

【写真右から】松原惇子さん、吉田太一さん、市川愛さん、香山リカさん。

孤獨死の定義見直し 1年気づかず 80歳の孤獨死 発見時死後1週間以上 孤獨死の定義見直し 1年気づかず 80歳の孤獨死 発見時死後1週間以上